

国分寺市立小学校知的障害特別支援学級設置等検討委員会 (第4回) 要点記録

実施日時	令和5年8月23日(水) 午後2時30分から午後4時15分まで
会場	国分寺市立教育センター
欠席者	2名
会次第	1 開会 2 前回要点記録の確認 3 配布資料の説明 4 協議
<p>1 開会</p> <p>2 前回議事録の確認</p> <p>3 配布資料の説明</p> <p>4 協議</p> <p>(1) 新規に学級を設置することについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級設置の候補となる学校について、資料に基づいて協議を進める。新規に学級を設置するに当たって、意見を伺いたい。 →以前の資料の居住区別人数をみると、二小の地域にお住まいの方には、北町、新町、並木町の住所が入っている。その中で二小の方は35人いる。以前、歩いて登校できるのが理想的だというお話があったが、六小は学級が空いているものの、少し北過ぎるという感覚がある。ただ二小の学区の方に北町、新町、並木町という方が多くいるのであれば、六小が考えられる。六小は位置的に一番端にあるので、通学については難しい部分があるかもしれないが、学級数が令和7年においても2教室は空くという予測の下であれば、六小が候補になると考える。 →国分寺市は、特別支援学級の通学について、スクールバスの利用も可能としているが、できるだけ知的障害の児童の場合、中学校、それから高校を考えると、自分1人で通学したり、また別のところに通所したりすることから、1人で通える力を身に付けさせる必要がある。 →国分寺市の形が横長であることから、もし六小に新設ということであれば、学区の引き直しを工夫しないと、自主登校などの可能性は引き出せないのではないかと思う。 →本日の資料は、これから国分寺市のそれぞれの小学校の学区で、マンションが建つなど、いろいろな要因があって、不確定要素も出てくることがあり、予測不可能な部分がある。資料のデータを見ると、空き教室の数だけで判断するわけではないが、実際にこれから特別支援学級設置校を1校増やすとなると、基本的には児童数が多い、第二小学校の児童数が半分という形で分かれていくということが望ましいと考えられる。今後学区の調整なども含めて考えていく必要があることから、市全体の物理的な距離として、隣の特別支援学級設置校の学校との距離は、ある程度間隔を空けていくということになると考えられる。今、検討に挙げられている五、六、九、十小学校を見ると、いずれの学校も現在設置校である二小と七小の間にある。ある程度均等な距離を保つということで考えると、一番中間地点になるのは九小ということになるが、九小は設置の余裕教室がないということ、第二小学校の児童数が半分という形で分かれることが望ましいということから、少し北側にはなるが、現状では六小の位置が空き教室を勘案することからも候補として考えていくことが妥当ではないか考える。しかし、今後の児童数等の動向を見ながら最終的に決定していかなければならないと考える。 →今後、国分寺市の児童の状況や推計に合わせて、やはり適切な規模の特別支援学級の設置が必要に応じて検討していくことになるかと考える。特別支援学級での活動のための附帯の設備も必要になるであろうし、通学の面の対応なども含めて、整備を進めていかなければならない。特別支援学級を新規で設置するにあたっては、子どもたち、また保護者の意見なども聞きながら進めているというまとめがあってよいと思う。特別支援学級の市全体での設置を充実していくという方向性をこれからもお願いしたいということ、報告書に入れていくべきではないかと 	

考える。

(2) 報告書案について

- ・資料3の報告書案について、内容的として補足が必要であることや、追加の意見があれば検討していきたい。
- (6)の施設設備について、特別支援学級の施設設備について、照明やパーテーションのことであったり、クールダウンとか落ち着きを取り戻せるような場所であったりは、やはりこれからの特別支援学級の中の施設としては必要であると考え。
- 施設設備の件については、新規で学級が設置されるのであれば、今後、ICT機器は必要で、プロジェクターを使って映したり、吊り下げ式のテレビモニター、もしくは可動式のテレビモニターで映し出せたりすることができるようにすべきだと思う。
- ICT機器の整備は、特別支援学級独自に少し特徴があったり、工夫があったり、対応できるようなものを整備していく必要がある。通常学級でもICT機器の活用が進んできている部分があることから、特別支援学級なども使い勝手のよいものを整備していく必要がある。
- 棚に関して、ランドセルや教科書、体育着のかごを入れてという移動式ロッカーが望ましい。ロッカーが固定されて設置されていると、年度によって児童の組み合わせ、人数編成が変わったりするので、自由に教室環境を変えられないことがある。下がキャスター付きになっていると、年度によって、それを教室の真ん中で仕切って、ちょっと空間を空けることもできるので、ロッカーは、可動式のロッカーを使った方がよいと考える。また、教材が絶対増えていくので、教材スペースは必要である。
- 学区を区切ったときに、子どもの気持ちがあると思う。とくに卒業を迎える6年生は、学区の区切りでこれまでと異なる学校に通うとなると、今まで一緒に学習してきた友達と卒業を迎えたいという気持ちもあると思う。新1年生であれば学区で区切っても納得されると思う。新2年生以上についてはやはり考慮が必要で、きめ細かな対応が求められる。
- 今までの学区変更の場合にもあったと思うが、例えば高学年の児童が学校に慣れていたり、友達関係のことであったり、児童の心情を考えると、段階的に学区変更していくやり方もあると思う。このようなことも十分勘案して段階的にやっていただきたい。
- 設備について、多目的トイレの設置は今後必要であると考え。また、段差がないようにバリアフリーのスロープがあると安全に生活することができる。
- 新規の特別支援学級で、パーテーションで分けるような形になる場合、可能な限り黒板が両方にあることや、可動式のモニターなど、教室を分けても対応できる環境が必要である。また、冷暖房も、教室を分けてしまうと片方から風が来るが、パーテーションを閉じてしまうと、片方には涼しい風が行き渡らないことがあるので、窓や出入り口の関係性もあるが、快適な学習環境となるよう柔軟にできるとよい。
- 今回新規で特別支援学級を設置することを話しているが、国分寺市全体で共通してできることを考える必要がある。市内全ての特別支援学級の環境整備、教育内容や方法の充実につなげていくことに焦点を当てて協議していくとよい。

○事務連絡

第5回は、10月26日(木)14時30分～ 国分寺市立教育センター